

視察研修報告

11月6、7日に2つの委員会合同で長野県千曲市と長野県南箕輪村を視察しました。

総務産業委員会

あんず栽培の現状と今後の課題を調査

平成30年11月6日、所管事務の視察研修を実施しました。

調査事項

(1)あんず栽培状況、最新の栽培技術、課題と今後の取組について

長野県千曲市（あんずの里）へ視察研修に行き、商工会議所より「あんず農家」の北條農園を紹介されて現地を見学しました。

■農園の概要

- ①栽培面積は、5力所で、約1ヘクタールに大小200本のあんずの木を植樹。
 - ②主な品種・平和・昭和・信山丸・ハーコット・信州大実・信州サワー・山形3号。
 - ③収穫量は加工用15トン、生食用1トン。
- あんず栽培の課題
樹高3〜5メートルと高い為、

- ①剪定作業・摘果作業・収穫作業、管理作業など、三脚を使った高所作業となり、作業効率が非常に悪い。
 - ②消毒時間・消毒量に無駄が多い。
 - ③三脚上の作業は、安全性の確保が出来ない。
- とのことでした。

■今後の対策と栽培計画

- ①「加工用あんず」から「生食用あんず」へ切り替え、平和・昭和種の在来木にハーコット種を接ぎ木して、人気種を増やす。
- ②低位栽培法（低樹高）を普及させる。高所作業をなくして、平地作業で安全性の確保と作業効率の向上、農薬散布量減少を目指す。
- ③樹体ジョイント栽培法の採用により、全ての成枝に日光を当てて、果実環境を整えている。また、初期投資が必要（10アールに80本植樹・誘引のため棚が必要）

という説明を受けた後、現地の接ぎ木や「樹体ジョイント栽培」を視察しました。樹体ジョイントとは、あんずの苗木と苗木を繋ぐことです。苗木と苗木の間隔は3メートル位ありますが、枝を「く」の字型に曲げて次の苗木に繋ぐ方式です。また、苗木の根回りに藁を敷いた苗木と、黒いビニールを敷いた苗木では、黒いビニールを敷いた苗木の方が育ちが良いことが、一目瞭然でした。



北條農園にて



樹体ジョイント部



人気種の接ぎ木と低樹高

視察研修を終えて

あんず栽培について、これまで教えてくれるのかと思っくらい、熱心にご指導いただいた。ブランド化開発では商工会議所が費用を協力。町もあんず組合中心に発展してほしい。（中山）

あんず農家でありながら自分で加工・販売まで手掛けている方の畑で、作業がしやすい樹形、土壌管理の方法、品種や、労働力不足の問題等、有意義な事柄を学習した。（森）

日本一のおんずの里、千曲市の北條農園を現地視察。歴史のある栽培方法に、新しい技術を取り入れての栽培。今後の鳩山での取り組みに大変参考になりました。（石井徹）

あんず農園では、栽培技術を多く学んだ。しかし労働生産性・需要・製品価格に課題があるようです。南箕輪村の福祉は、これを参考して、鳩山町でも出来るものは実現したい。（関根）

常任委員会レポート

福祉文教委員会

人口増加中の南箕輪村を視察研修

平成30年11月7日、所管事務の視察研修を実施しました。

調査事項

長野県南箕輪村を訪れ、子育て支援及び高齢者福祉について視察研修しました。南箕輪村は、子育て中心の村づくりに取り組み、企業誘致による就労先の確保や地理的条件も加わり、人口が増加しています。（平成27年までの5年間で27%の増加率）

(1) 子育て支援事業について

子育ての中心的な施設になっているのが「こども館」です。平成29年度に竣工しました。建設費は約5億円かけ、約1435平方メートルの鉄筋平屋の建物、敷地は、約3474平方メートル、17部屋もありました。利用対象者は、0歳から18歳までの児童生徒と、その保護者及び交流にかかわる方となっています。



こども館前にて

利用料は基本的に無料ですが、材料費などは実費です。職員体制は、こども館係で29人です。目標は、「子どもたち、子育てにかかわるすべての人が集い、学び、遊び、相談の場として活用していただく場所を目指して」です。仕事は、こども館の管理運営、児童館事業、学童保育の管理・運営、すくすくハウスの管理・運営、ファミリーサポート・センター事業などです。



中学学習支援等小中学生の放課後に利用

(2) 高齢者福祉サービスについて

今まであった事業を村と社協と住民で、育て上げ、継続させていました。

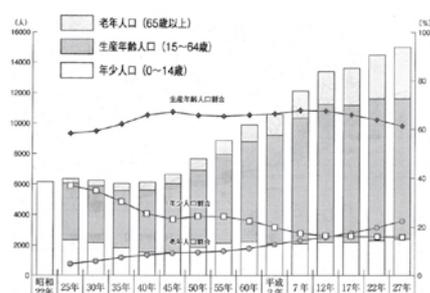
介護予防事業では、ゆつたり水中教室、げんきあっぷクラブ、ゆうゆうトレーニング教室などがあります。

高齢者の生活支援では、まっくん生活支援愛事業があり、生活支援サービスマチヤン（みなみちゃん）は、社協の会長が認めたもので、通院の付き添い、買い物、散歩、



福祉事業の詳細な説明会

南箕輪村人口推移（2018年10月）



話し相手、見守り等があります。この外、移動支援、家族介護支援、などがあります。

千曲市は「一目十万本」とうたわれる「あんずの里」。商工会議所を中心に、あんずを活用して地域振興に取り組んでいます。鳩山町も将来目標を定め、町が一体化して取り組む必要があると感じます。（日坂）

こども館を拠点に、子育てに関わる充実したプログラムが用意されました。鳩山町にも豊かな人材があるので、工夫すれば何かできそうな気がします。（野田）

何故、人口が増え、若い人達が住む村なのか。まず、土地が安い、子育てに適した自然環境、村内や、近隣の市町村に働く場所が多いということでした。（小川）

南箕輪村の子育て支援の取組みからは、行政が本気になって取組めば、魅力のあるまちづくりにつながるといふ事を考えさせられた。重要な事は提案力と実行力。（大賀）